

研究課題	豊かな人間性と高いコミュニケーション能力を備えた児童の育成
副題	～いつでも、どこでも、だれとでもつながることができる ICT の利点を生かして～
キーワード	授業研究 環境整備 つながり
学校/団体名	大井町立相和小学校
所在地	〒258-0015 神奈川県足柄上郡大井町山田 580
ホームページ	https://essouwa.edu-net.work/

1. 研究の背景

本校は、全校児童が42名の、いわゆる小規模校である。平成27年度に大井町教育委員会からICT教育推進校と位置付けられ、児童用タブレット端末が近隣校よりいち早く30台導入された。発表資料作成ツールを活用して自分の考えを学級全体に共有したり、文書作成ツールを活用して委員会活動の議案書を作成したりするなど、積極的な活用を試みてきた。

そして、令和3年度、GIGAスクール構想により新たなタブレット端末が一人一台配備され、1年生から授業内外で系統的に使用し、個の知識・技能の習得を図ることで、自分の思いを文章や写真などを用いてまとめることができている。しかし、人間関係に広がりが見られない、発表の場面であまり緊張感を味わうことができないなど、小規模校ならではの課題も見られる。

2. 研究の目的

いつでも、どこでも、だれとでもつながることのできるICT機器の利点を生かし、県内外や国内外の他者と関わったり、各教科で学習したことをアウトプットしたりすることで、豊かな人間性の育成やコミュニケーション能力の向上、さらには多様性を認めることにつながり、将来活躍できる人づくりに生かしていくことを目的に研究を行うことにした。

3. 研究の経過

時期	取り組み内容
4月	ICT担当者連絡会議
5月	ICT機器を活用した授業研究 修学旅行に向けて 近隣校とリモート授業
6月	町学力向上支援事業・校種間連携授業
7月	スタジオ環境整備 スクールフォトレポート提出 ロサンゼルスとリモート交流
8月	ICT担当者連絡会議
9月	職員ミニ研修
10月	授業の配信（感染症等、出席停止児童に対して） ロサンゼルスとリモート交流

11月	学習発表会に向けて ICT機器を活用した授業
12月	校外学習に向けて 近隣校とリモート授業 スクールフォトレポート提出
1月	ICT担当者連絡会議
2月	ロサンゼルスとリモート交流 タイピングチャレンジ ピンクシャツデー（いじめ反対運動）の呼びかけ（ビデオ会議システムの活用）
3月	卒業式に向けて 近隣校とリモート授業 県内の地理的特徴（山間部と沿岸部）のある他市の学校とのリモート交流 研究のまとめ

年間をとおして、授業研究、環境整備、つながりの3つを意識しながら研究を進めていく。

授業研究では、効果的なICT機器の活用とともに、各教科での学びをアウトプットすることを大切にしていく。環境整備では、スタジオを中心とする教室環境を整え、学びの場づくりを行っていく。つながりでは、学校内外とのつながりや、町主催のICT担当者連絡会議をとおして、学びや情報を共有できるようにしていく。

4. 代表的な実践

(1) ICT機器を活用した授業研究（5月）

3～6年生で、ICT機器を活用した授業研究と協議会を行った。

3年生：算数「時こくと時間のもとめ方」



校外学習をテーマに、到着時刻や移動時間について求めた。児童が書いたノートをタブレットで撮影し、みんなで共有することで思考の流れが視覚化されたり、友達の考えを書き加えたりすることができた。協議では、紙とデジタルのバランスを大事にすることを共有した。

4年生：社会「健康なくらしとまちづくり」



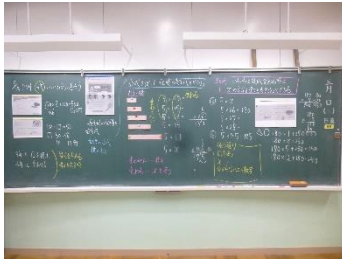
家庭学習でまとめた「家から出たごみを調べた記録」を発表し合った。表やグラフだけでなく、写真を添付することで、文字だけでは伝えきれないごみの量感や種類について理解を深めることができた。協議では、発表内容によって使用するツール（アプリ）を変更するとよいことを共有した。

5年生：算数「比例」



マスと時間の関係から比例の法則を導き、集合時刻に間に合うかを考える授業を行った。タブレットのツールを活用することで、思考の過程を子供たち同士で共有し合いながら練り上げることができた。協議では、タブレットは道具として活用し、学び合いを充実していくことを共有した。

6年生：算数「文字と式」



式について振り返り、変数 x を用いて立式する授業を行った。タブレットの問題演習アプリを活用することで、3～5年生までに学んだ「○や□を用いた式」を復習しながら学びを進めることができた。協議では、タブレットの活用場面や時間配分について考えていくことを共有した。

(2) リモート授業



そうわ学級は、11月と2月に町立3小学校と1中学校でリモート交流を行った。11月は、歌やダンス、楽器クイズなど、各校ごとに発表を行った。一人一人が自分の好きなことや得意なことを話したり聴いたりすることができた。2月は、卒業に向けて、お祝いのメッセージを伝え合うことができた。



1・2年生は、10月と2月に海外の方とリモート交流を行った。10月は、自分の好きな物を、絵や写真、実物などを活用して紹介した。2月は、日本の正月について紹介したり、現地の小学校事情について教えていただいたりした。特に、1年生は、初めてつながることや伝わることに喜びを感じていた。



3・4年生は、7月と2月に海外の方とリモート交流を行った。7月は、現地の祭について教えていただいた。2月は、自分たちの学校を紹介した。自分たちで授業や行事のことをまとめて伝えることで、外国語を話すことや、学びの成果を表現することに自信をもつ様子が見られた。



5年生は、2月に海外の方と、3月に県内他市の小学校とリモート交流を行った。これまでに学んできた社会科や外国語について伝えた。発表場面によって、個人、ペア、全体にすることで、一人一人が役割をもち、コミュニケーションを図る姿が見られた。



6年生は、5月、12月、3月に隣町の小学校とリモート交流を行った。同じ小規模校ということで、修学旅行や校外学習に向けて、事前の交流を行った。前もってコミュニケーションを取ることで、当日楽しく過ごすことができた。3月は、卒業式で歌う歌を発表し合い、お互いにエールを送り合った。

(3) 環境整備

“自由度が高く、学ぶ空間としてのスタジオ”をめざし、大型モニター、高性能カメラ・マイク、ホワイトボード、ミーティングチェアを設置し、環境を整えた。写真は、6年生の外国語の様子である。教室の奥で一斉・ペア学習で学んでいるが、手前は、交流・ビデオ会議スペースとなっており、学びによって形態や空間を自由に設定することができる。1年をとおして、外国語や外国語活動、リモート交流など、様々な場面でスタジオを活用し、学びに向かうことができた。



(4) 職員研修



夏休み明けに職員研修を行った。内容は、「スタジオの活用方法」「パナソニック教育財団 実践研究について」「ICT機器を活用した学びづくり」の3つについて実施した。

スタジオの活用方法では、普段使いの外国語や外国語活動の授業、また、リモート交流などの授業など、学びによって形態や空間を自由に設定して教育活動を行うことができることと、それに伴うICT機器の使用方法について確認した。

パナソニック教育財団 実践研究については、改めて実践研究のねらいを確認し、これまでに助成金で購入した物を紹介した。

ICT機器を活用した学びづくりでは、「文部科学省 各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料」、「神奈川県 ICTを活用した学びづくりのための手引き」、「大井町 まなびポケット MEXCBT の活用」について共有し、よりよい授業づくりについて研修した。

(5) 授業の配信 ビデオ会議システムの活用



感染症等、出席停止で長期欠席を余儀なくされる児童に対して授業の配信を行った。相和ハッピー祭（運動会+収穫祭）の時期に欠席者が増えたこともあり、タブレットをとおして授業を配信することで一人一人の学びを保障し、見通しをもって行事に向かうことができた。



給食時にビデオ会議システムを活用し、ピンクシャツデー（いじめ反対運動）の呼びかけを行った。これまでは放送による音声のみの伝達だったが、ビデオ会議システムを活用することで、紙芝居の内容とともに、表情や動作も工夫しながら全校に呼びかけることができた。

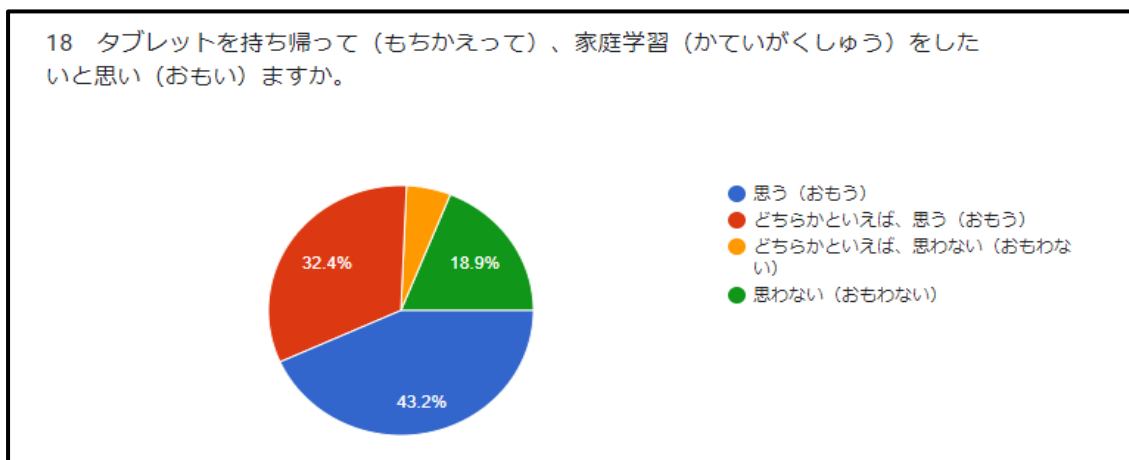
5. 研究の成果

(1) 児童のコミュニケーション能力の向上

研究をとおして、様々な教育活動の場面を設定することで、児童のコミュニケーション能力の向上が見られた。特に、4. 代表的な実践(2) リモート授業では、子供たちが授業に向けて主体的に準備を行い、交流会で堂々とアウトプットする姿が見られた。また、子供たちの振り返りでは、「緊張したけど、話した内容が伝わってよかった」「事前にリモートで交流することで、実際会ったときにスムーズにやり取りして楽しく過ごすことができた」という声を聞くことができた。

(2) 児童のタブレット端末活用に対する意識の変容

7月と12月の2回、校内研究アンケートを行ったところ、次のような結果になった。



4人に3人の子供たちが、タブレットを持ち帰って家庭学習をしたいと回答している。高学年の児童に否定的な回答が見られたが、状況に応じて、家庭学習ノートとタブレット端末の学習を使い分けている。学びの内容に併せて使用するツールを選択していることが分かった。

また、「問題演習アプリを用いて、自分の力をつけることができましたか」という質問には、8割近い子供たちが肯定的な回答をしている。ドリルやタイピング、発表ソフトなど、タブレット端末が身近になっていることを感じるともに、目的意識、相手意識をもたせた活用の在り方を引き続き研究するとともに、職員間で共有していきたい。

(3) 職員のICT機器の活用・授業改善

1年をとおして授業研究に努めることで、職員がICT機器の活用・授業改善に取り組むことができた。教科指導や児童指導だけでなく、学びに必要な環境について考えることで、よりよい学びに必要なものを揃えることができた。

また、会議や研修をとおして、子供たちの実態を共有したり、明日からの授業につなげたりするなど、職員同士で学び合うことができた。これまでにお世話になっている方だけでなく、今年度新しく教えていただいた支援業者など、機会を設定することで新しい学びを開拓することができた。

6. 今後の課題・展望

豊かな人間性と高いコミュニケーション能力を育成するためには、今年度の学びを児童・職員ともに引継ぎ、継承していくこととともに、学びの機会を充実していくことが必要である。今年度生まれた新たなつながりを大切にしながら、次年度もチャレンジし続け、開拓していきたい。

豊かな人間性、高いコミュニケーション能力は、ともに定量化が難しい。校内研究とリンクさせることで、具体的な子供の姿や行動について研究し、評価、検証していきたい。キーワードを「共有」とすることで、児童・職員・保護者や地域と学びを共有し、具体的な数値や言語化で示していきたい。

スタジオの環境整備を行ったが、通信環境が不安定になることがあった。次年度には解消されるが、よりよい環境を整えるために、定期的に状況を把握することや、行政や支援業者と連携することが必要である。また、教室回りの配線を整理することも必要である。必要な接続機器を揃えることで、子供たちにとって、安全・安心の環境を整えたい。



7. おわりに

今回の研究で、いつでも、どこでも、だれとでもつながることができるICT機器の利点を生かして様々な教育活動を設定し、豊かな人間性と高いコミュニケーション能力を備えた児童の育成を目指して取り組むことができた。

今後も、教師が学び続けることを大切にしながら環境を整えることで、子供たちが自ら学びを選択することや、子供たち同士が学び合い高め合う学びにつながるよう研究を積み重ね、将来活躍できる人づくりを行っていきたい。

8. 参考文献

- ・ 文部科学省 各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00915.html
- ・ 神奈川県教育委員会 ICTを活用した学びづくりのための手引き
<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/68050/r5tebiki.pdf>
- ・ 神奈川県教育委員会 かながわの学びを充実・改善のために
<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/52405/r5shiryou.pdf>